



平成 27 年 1 月 14 日

各位

会 社 名 アンジェス MG株式会社
代 表 者 代表取締役社長 山田 英
(コード番号 4563 東証マザーズ)
問 合 せ 先 経営企画部長 米尾 哲治
電 話 番 号 03-5730-2641

DNA ワクチン技術を用いたエボラ出血熱抗血清製剤の開発を開始

当社は、遺伝子治療技術を応用し、エボラ出血熱対策医薬品として抗血清製剤の開発を国内で開始することといたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

抗血清製剤は病原体の増殖を阻害する抗体（中和抗体）を有効成分とする医薬品です。当社が開発を計画する抗血清製剤は、エボラ出血熱ウイルスのタンパク質をコードする DNA ワクチンをウマに接種して得られる、ウイルスタンパク質に対する抗体を精製して製造します。DNA ワクチン技術を用いることで、病原ウイルス自体を取り扱わないため安全に、かつ短い期間で製造できることから、緊急の対策を必要とするエボラ出血熱治療薬として適していると考えられます。

当社は、当該抗血清製剤の開発について、DNA ワクチン技術を保有する米国 Vical 社 (Vical Incorporated、本社：カリフォルニア州サンディエゴ、President & CEO : Vijay B. Samant) と契約を締結し、国内の独占的開発販売権を取得いたしました。当該抗血清製剤を開発するための DNA ワクチンは Vical 社が製造いたします。当社では、抗血清製剤の実現に向け、平成 27 年 12 月期第 1 四半期に予備的な試験に着手します。

当社代表取締役社長の山田英は以下のように述べています。

「抗血清製剤は破傷風やジフテリアなどの治療薬として実績があることや、エボラ出血熱の治療を目的として回復した患者の血清の投与が試されていることなどからも、エボラ出血熱の治療薬として抗血清製剤の可能性が期待されています。当社が開発する抗血清製剤は、罹患者の治療用や、感染リスクの高い医療従事者等の携帯用等、緊急対策用の医薬品として位置付けられることが想定されます。まずは予備的な試験を開始し、今後の開発計画については詳細が確定次第、公表していく予定です。」

本件による平成27年12月期の業績への影響は軽微であります。なお、平成27年12月期通期業績予想につきましては、2月に予定している平成26年12月期決算発表の際に公表する予定です。

以上

(ご参考)

抗血清製剤について

抗血清製剤は、感染予防効果を得るのに時間を要するワクチン療法とは異なり、すでにウイルスに感染してしまった患者の病態の重篤化を抑制するものです。動物（ウマ等）に病原体や毒素を投与してから血清を精製し、得られた抗体を含む成分を患者に投与することで、免疫を持たない患者の病態の重篤化を阻止します。